

## 安定収量、大粒生産のための「穂肥」施用について

幼穂形成期の施肥は籾数の増加や登熟向上効果があります。分施肥系では、幼穂形成期に適正量の『穂肥』を施用することで、安定収量の確保と大粒生産に繋がります。

「ふくまるSL」の穂肥窒素施用量は、「コシヒカリ」より多めにするのがポイントです。

### ○ 穂肥の施用時期、施用量について

<p>穂肥時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>出穂前18日（幼穂長5～10mm）を目安</b></li> </ul> <p>※ただし、この時期に葉色 4.5、SPAD 値 38 を超える場合は、倒伏の恐れがあるため穂肥は控えてください。</p> <p>&lt;参考&gt; 「ふくまるSL」の出穂期と穂肥施用時期の目安</p> <table border="1" data-bbox="435 797 1273 949"> <thead> <tr> <th>調査場所</th> <th>移植期</th> <th>出穂前18日</th> <th>出穂期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>龍ヶ崎市</td> <td>4月26日</td> <td>6月26日</td> <td>7月14日</td> </tr> <tr> <td>水戸市</td> <td>5月8日</td> <td>7月3日</td> <td>7月21日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 茨城県農業総合センター農業研究所における平成28年～令和2年の平均値</p> <div data-bbox="387 1025 762 1077" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【参考】幼穂の確認方法</p> </div> <p>※生育が中庸な株の主茎または最長茎を数本抜き取ります</p> <div data-bbox="392 1173 1442 1478"> <p>よく切れるナイフ等で茎を二つに割る</p> <p>幼穂長5～10mmが穂肥の目安です</p> </div>	調査場所	移植期	出穂前18日	出穂期	龍ヶ崎市	4月26日	6月26日	7月14日	水戸市	5月8日	7月3日	7月21日
調査場所	移植期	出穂前18日	出穂期										
龍ヶ崎市	4月26日	6月26日	7月14日										
水戸市	5月8日	7月3日	7月21日										
<p>穂肥施用量 (窒素施用量)</p>	<p><b>穂肥施用量は、N1.5～3.0kg/10a</b>とします。</p> <p>【穂肥施用量の算出方法】</p> <p>「コシヒカリ」栽培時に比べて増肥した分（基肥+穂肥の合計窒素量）を、基肥と穂肥に半分ずつ配分します。ただし、倒伏防止のため、<b>穂肥は最大でN3.0 kg/10a</b>までとし、超過分は基肥に回すこととします。</p> <div data-bbox="432 1771 1393 1921" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) コシヒカリ栽培時に比べて合計窒素量を4kg/10a 増肥する場合</p> <table border="0"> <tr> <td>「コシヒカリ」の施肥設計</td> <td>⇒</td> <td>「ふくまるSL」の施肥設計</td> </tr> <tr> <td>基肥N3.0kg+穂肥 N1.5 kg</td> <td></td> <td>基肥 N5.5kg+穂肥 N3.0kg</td> </tr> </table> </div>	「コシヒカリ」の施肥設計	⇒	「ふくまるSL」の施肥設計	基肥N3.0kg+穂肥 N1.5 kg		基肥 N5.5kg+穂肥 N3.0kg						
「コシヒカリ」の施肥設計	⇒	「ふくまるSL」の施肥設計											
基肥N3.0kg+穂肥 N1.5 kg		基肥 N5.5kg+穂肥 N3.0kg											
<p>穂肥施用時の留意点</p>	<p>生育不足の場合は、施用時期を2～3日早め、施肥量はN3.0 kg/10a 以内。生育過剰の場合は、施用時期を4～5日遅らせ、施用量を控える。</p> <p>【出穂前20日頃の適正生育量の目安】</p> <p>草丈 65～70 cm、㎡当たり茎数 500～550 本、葉色 3.6～4.0 程度</p>												